



おだ学園保育通信



あけまして おめでとうございます

2022年おだ学園保育園では、初めて迎えたお正月です。

お迎えの樹のあるエントランスでは、子どもやお家の人たちとも改めて「あけまして おめでとうございます」「こ
としもよろしくおねがいます」の挨拶の言葉が行き交っていました。保護者の方からは「疲れました～」の声も
きかれたようです。頑張ったお家の方々に労いの気持ちを込めて、「お疲れ様でした」。

今年は、疲れが吹き飛ぶくらいに一日一日の子どもたちの成長と一緒に喜び、見守り、子育てを楽しんでいきま
しょう。

絵本の会

1月5日（水）に近隣にお住いで絵本作家の（夢ら丘実果さん）が来園してくださいました。

昨年から集まることは最低限としながらもせめて夏祭り、スイカ割り、クリスマス会とワイワイ、がやがやと楽
しいことを経験してきました。でも今回は、外部の方のお話を聴く、というちょっと雰囲気異なる会です。職員
も子どもたちの反応にドキドキしていました。

ところが夢ら丘さんが登場して、お話が始まるといつになく神妙な顔で
参加している姿に成長を感じました。（写真右）

絵本の題名は「かーくんと森のなかまたち」

ホシガラスのカー君はコンプレックスから「消えてしまいたい」
とまで考えてしまいます。その時、森の仲間たちのおかげでだんだんと
元気を取り戻すカー君。…という内容です。

～読み終わった後に質問タイム～

（夢ら丘さん）かーくんどうして元気がなかったのかな？ 子ども「は～い！は～い！」とみんな元気に手を挙
げます。（夢ら丘さん）「はい、あなた」（指名されると）もじ、もじ、もじ～

（夢ら丘さん）「元気がない子にどんな言葉をかけてあげる？」子ども「は～い！は～い！」と再びみんな元気
に手を挙げる。（夢ら丘さん）「はい、あなた」（指名されると）もじ、もじ、もじ～と首をかしげます。

（夢ら丘さん）「では、先生は？」先生「どうしましたか？」「どうしたの？」と聞く、と返答がでました。

子どもたちにとっては、自分が中心。自分と違う思いがある相手がいることなんて考えたことがありません。
幼児期になってやっとあれ？自分はこう思っていたのに、お友達はどうなの？

相手には自分と違う思いがあるの？と少しずつ気づきはじめてきます。

そこで、伝える意欲はいっぱいあるけれど、いざ（なんていうのかな？）

と子どもたちが戸惑っている姿もよくわかりました。

絵本は、このように実際に経験のない世界に導き、楽しませてくれると同時に
考える力や想像力を育み、心を豊かにしてくれます。

園でもお家でも絵本が身近な存在になっているといいですね。



ぱんだ・もり・そらの保護者の方へおねがい
フックに上着をかけるために襟ぐりにヒモを付けてください。

